

## 令和3年度 理数教育優秀教員(算数・数学科) 学習指導案から見る授業づくりのポイント

今年度開催された算数・数学科コアティーチャー授業研究会の指導案から授業づくりの参考となるポイントを「授業スタンダード」を基にまとめました。これらのポイントを、算数・数学科の授業づくりに生かしてほしいと思います。

### 授業前に

#### ○ 単元をつくる

- 学習指導要領で教科の目標、単元の位置付けを確認する。

#### 2 単元の目標

- 小数が整数と同じ仕組みで表されていることを知るとともに、数の相対的な大きさについての理解を深めたり、100分の1の位、1000分の1の位を用いて小数を表したり、小数の加法や減法の計算をしたりすることができる。【知識及び技能】
- 数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、数の相対的な大きさ、小数の加法や減法の計算の仕方などについて、整数の場合を基にしながら考えたり、説明したりすることができる。【思考力、判断力、表現力等】
- 10分の1未満の小数の表し方や小数の加法や減法の計算の仕方について、十進位取り記数法のよさや整数の仕組みと関連づけて考えた過程を振り返り、多面的にとらえ検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしたりしている。【学びに向かう力、人間性等】



現行の学習指導要領では、全ての教科等の目標及び内容が「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」に整理されました。評価の3観点との違いに注意しましょう。

- 単元の評価規準を作成する。

#### 4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 1000分の1の位まで範囲が拡張された小数が整数と同じ仕組みで表されていることを知り、数の相対的な大きさについての理解を深めることができる。 ② 1000分の1の位までの小数の加法及び減法の計算ができる。	① 数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、1000分の1の位までの小数の加法及び減法の計算の仕方を考えている。 ② 日常生活の問題を小数の仕組みや単位、加減計算を活用して解決している。	① 小数の仕組みやその計算について、数学的表現を用いて表したり、多様な見方でとらえたりするよさに気付き、学習したことを生活や学習に活用しようとしている。



「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価規準は、学習指導要領に示された内容をもとに、文末を「～している」「～することができる」として評価規準を作成します。



基本的に当該学年目標の(3)の「学びに向かう力、人間性等」の記述をもとに、文末を「～している」として評価規準を作成します。

## □ 働かせる「見方・考え方」を明らかにする

第4学年の学習では、図形の構成要素として辺の位置関係にあたる垂直・平行と対角線の長さや交わり方という新たな視点が加わる。垂直や平行という視点を基に四角形を仲間分けする活動を通して、平行四辺形、台形、ひし形を定義していく。これらの四角形を正しく作図したり、弁別したりできるような定義や性質の確認をていねいに行うようにする。さらに、各四角形に対角線をひき、その交わり方や長さを調べることで、各四角形の特徴だけでなく相互関係を考察したり、対角線のもつおもしろさを感じ取ったりしながら学習を進めていくようにしたい。



単元（授業）で働かせる「数学的な見方・考え方」を教材観のなかで明記しています。

## □ 教材の系統性を確認する。

### (1) 教材観

関数については、小学校で、簡単な表やグラフをかいたりしながら、比例の基本的な性質を学習してきた。中学校第1学年では、変数を負の数を含む有理数まで拡張した上で、数量関係の基本的なモデルとして比例や反比例を学習するとともに、変化と対応、変数、変域、座標などの意味を学習してきた。第2学年においては、第1学年の学習をさらに発展させ、基本的な関数関係の代表的なものとして1次関数を取り上げ、それを中心として変化の割合など関数の理解を深めることになる。第3学年では、第2学年までの学習をさらに発展させ、生徒が日常経験する具体的な事象の中から、 $y = ax^2$ の関数を扱うことになる。

日常事象の中には、1次関数から考えられるものがたくさんあり、もっとも身近な関数といえる。小学校の学びや今後の学びを踏まえて、本単元ではどのような資質・能力を育むのかを考えます。



小学校の学びや今後の学びを踏まえて、本単元ではどのような資質・能力を育むのかを考えます。

## □ 子どもの実態を把握する。

説明をよく聞き、ノートに大切なポイントをまとめながら授業に取り組んでいる。しかし、数学に対する苦手意識をもっている生徒が多く、積極的に自分の考えを述べる事ができる生徒が少ない。昨年度の実力テストの結果は、県平均をやや下回っている。領域別の正答率を見ると、「方程式の解」は□□%、「方程式の解き方」は□□%であり、約7割の生徒は方程式の解を理解しており、基本的な方程式を解くことができる。一方で、「方程式の利用」の正答率は□□%であり、具体的な事象の中の数量の間の関係を見だし、方程式をつくり解くことができない生徒が多い。そのため、授業では図や表などを用いて、問題場面を整理したり、既習事項と関連づけながら、課題解決できるよう支援を行っていきたい。



学びの主体者である子どもの実態を把握することは授業づくりに欠かせません。子どものよさや学習への興味・関心、身に付けてきた学習方法や生活経験、既習事項の定着度などを適切に捉えましょう。

## □ つまずきを想定する。

本時の指導に当たっては、整数の大きさを比べる問題から取り上げ、次に小数の大きさを比べる問題を提示する。その際、大きい位から比べることや数直線上に数を並べ、右にある数ほど大きいということなどの既習事項を確認する。その後、1000分の1の位までの数を含んだ4つの小数の大きさを比べる本時の課題を提示していく。桁数の多さだけで判断しようとする誤答を取り上げながら、「小数の範囲が拡張しても既習の方法が使えるのではないか。」ということ問いかけ、問題を解決していくようにする。小数の加減計算にもつながるよう、位の揃え方や数直線の一目盛りの取り方について意図的に間違いを提示し、整数も小数も含んだ数の比べ方を確実に理解できるようにしていく。



子どもがどこで、どのようなつまずきをするのか想定し、つまずき（誤答）を生かす工夫について考えます。

□ 単元や内容のまとめを見通して、大まかな流れや重点（軽重）を確認する。

2節 連立方程式の利用 4時間 , まとめ 2時間			
時数	ねらい	学習活動	評価規準（評価方法）
8	○具体的な問題を、連立方程式を利用して解決するときの考え方や手順を理解する。	・バラとガーベラの本数を、連立方程式を利用して求めることについて考える。 ・連立方程式を使って文章題を解く手順を確認する。	思②、態② (ノート分析・行動観察)
9	○個数と代金に関する問題を、連立方程式を利用して解決することができる。	・個数と代金に関する問題を、連立方程式を利用して解決する。	思②、態③ (ノート分析・行動観察)
10	○速さ・時間・道のりに関する問題を、連立方程式を利用して解決することができる。	・速さ・時間・道のりに関する問題を、連立方程式を利用して解決する。	思②、態③ (ノート分析・行動観察)
11	○割合に関する問題を、連立方程式を利用して解決することができる。	・割合に関する問題を、連立方程式を利用して解決する。	思②、態③ (ノート分析・行動観察)
12 ・ 13	○学習内容の定着を図るとともに、数学的な見方・考え方を振り返ることができる。	・章の問題A、B ・単元テスト	知④、思②、態③ (ノート分析・テスト)

**check**

全国学力・学習状況調査の結果を基に、あえて割合に関する問題を1時間設定しています。

□ 単元全体を見通した評価計画を立てる。

5 指導と評価の計画（総時数13時間 本時 7/13）				
時	学習のねらい・学習活動	評価規準（評価方法）		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	○ 2本の直線の交わり方調べる活動を通して、垂直の意味を知り、垂直な2直線を弁別することができる。	・知① 行動観察 ノート分析	・思① 行動観察 ノート分析	
2	○ 三角定規を使って、垂直な直線をひくことができる。	・知① 行動観察 ノート分析	・思① 行動観察 ノート分析	
3	○ 2本の直線の並び方を調べる活動を通して、平行の意味を知り、平行な2直線を弁別することができる。	・知① 行動観察 ノート分析	・思① 行動観察 ノート分析	
4	○ 平行な直線は他の直線と等しい角度で交わることや、平行な直線の間の距離は一定であることを理解することができる。	・知① 行動観察 ノート分析		・態① 行動観察 ノート分析
5	○ 三角定規を使って、平行な直線をひくことができる。	・知① 行動観察 ノート分析	・思① 行動観察 ノート分析	
6	○ 方眼上の直線の垂直や平行の関係を理解することができる。	○知① 行動観察 ノート分析	・思① 行動観察 ノート分析	
7 本時	○ 四角形を分類する活動を通して、台形と平行四辺形の特徴を理解し、説明することができる。	・知② 行動観察 ノート分析	○思① 行動観察 ノート分析	
8	○ 平行四辺形の性質について、辺の長さや角の大きさを調べたことを基に説明することができる。	○知② 行動観察 ノート分析	・思① 行動観察 ノート分析	
9	○ 平行四辺形の辺の位置関係や構成要素を基に、平行四辺形をかくことができる。	・知② 行動観察 ノート分析	・思① 行動観察 ノート分析	
10	○ ひし形の辺の位置関係や構成要素を基に、ひし形の特徴を調べ、かくことができる。	・知② 行動観察 ノート分析	・思① 行動観察 ノート分析	
11	○ 対角線の意味と、様々な四角形の対角線の特徴を理解し、説明することができる。	・知② 行動観察 ノート分析	○思①② 行動観察 ノート分析	
12	○ 学習したことを活用して、身の回りの現象を筋道立てて考え、問題を解決することができる。		・思② 行動観察 ノート分析	○態①② 行動観察 ノート分析
13	○ 学習内容の習熟や定着を図るとともに、数学的な見方・考え方を振り返ることができる。	○知①② ノート分析 単元テスト	○思①② ノート分析 単元テスト	

**check**

主に「努力を要する」状況と考えられる児童の学習状況について、その後の指導に生かすために評価する機会を「・」として表記しています。

**check**

全員の学習状況について、総括の資料とするために、記録に残す評価を行う機会を「○」として、上記「・」と区別しています。

※ 指導に生かす評価を行う代表的な機会については「・」、総括の資料にするために記録に残す評価を行う機会には「○」を付けている。



# 授業前・授業中に

## ○ 本時の授業をつくる

□ 本時のねらいが達成された具体的な子どもの姿を明確にする。

### 5 本時のねらい

整数や10分の1の位までの小数の大小比較の方法を基に、1000分の1の位までの小数の大小関係を比較する方法を考え、説明することができる。

### 6 本時のねらいが達成された具体的な児童の姿

- ・ 1000分の1の位までの小数を位取り表に正しく表し、大きさを比べている。
- ・ 1000分の1の位までの小数を数直線上に正しく表し、大きさを比べている。
- ・ 自分が活用した小数の大きさを比べる方法のよさに気づき、1000分の1の位までの小数の大きさの比べ方を説明している。



本時のねらいを達成した子どもの姿を具体的に言語化しています。  
何のためにこの授業を行うのか、目的を明確にすることが大切です。目指すべき子どもの姿がはっきりしていれば、適切なコーディネートが可能です。

□ 教材との出会わせ方を工夫する。

7 指導過程		時間	○教師の支援 ◆評価(方法)
1	本時の問題に出会う。 次の数の大きさをくらべましょう。 (1) 2つの整数を比べる。 ア 240    イ 250 (2) 4つの小数(10分の1の位まで)を比べる。 ア 4.8    イ 4.2    ウ 4    エ 3.9 (3) 4つの小数(小数第三位まで)を比べる。 ア 2.43    イ 2.466 ウ 2.408    エ 2.48	7	○ 既習内容の整数の大きさを比べる問題から提示し、大きさを比べる際のポイントを想起させる。 ○ 次に10分の1の位までの小数を比べる問題を提示し、本時の学習内容に迫っていく。 ○ 一の位だけではなく、10分の1の位も着目して比べることを確認する。  ○ 本時の4つの小数は、今までとどこが違うかをはっきりさせる。 ○ 桁数が多いことと数の大きさが関係するか問いかけ、本時のめあてにつなげていく。
2	課題を把握する。 ◎ 1000分の1の位までの小数の大きさは、どのようにしてくらべればいいのか。		



子どもの問いを引き出し、必然性のあるめあてを設定することが大切です。  
本時では、「できる→できる→あれ?」の3拍子で問題を提示する工夫をしています。

6 本時の計画(本時8/16時間)			
(1) ねらい 与えられた条件から、直線の式を求める方法を、根拠や理由をあげて説明することができる。			
(2) 学習指導過程			
段階(編)	学習内容・活動	学習態	○教師の活動・支援 ・留意点 □評価(方法)
導入 10分	1. 問題場面を提示し、2点A(1, 1), B(5, 4)を通る直線は、原点を通るか考える。 	一斉・個	○ ICTを活用して、まずは2点の座標だけを提示する。そこで、「どんな問題を作れそう」と発問することで、事象から数学的な問題を見いださせる。 予想される生徒の考え (1) 2点を通る直線の式を求めなさい。 (2) 2点を通る直線は、原点を通るでしょうか。 (3) ABの長さを求めなさい。 (4) 2点ABを通る直線の切片(傾き)を求めなさい。 など



場面や状況のみを提示して、生徒自身に問題を見いださせることで、解決の意欲を高めようとしています。

□ 「問い」や「思い」を引き出し、めあてを設定する。

段階 (時間)	学習内容	学習活動
導入 10分	<p>1 割合について確認する。 生徒の反応例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・%で表したもの</li> <li>・2つの量を比べるときに用いられる考え方</li> <li>・基準量に対して、比較量がどれくらいの大きさなのかを求める</li> </ul>	<p>○「割合って小学生で学習してきたと思うけど、割合について知っていることは？」と発問することで、既習内容を振り返らせる。</p> <p>○問題が具体的事象であることを知るために、消費税に触れたり、値引きの値札を実際に見せながら、確認する。</p> <p>一斉 ○「どんな問題を作れそう？」と発問することで、事象から数学的な問題を見いださせる。(定価)</p>
	<p>2 場面だけを提示し、問題について考えさせる。</p> <p>あるお店で、おもちやお菓子を1つずつ買いました。特売日だったので、おもちや定価の10%引き、お菓子は定価の20%引きでした。はらった代金の合計は528円で、定価で買うより72円安かった。(おもちとお菓子の定価は、それぞれいくらですか。)</p>	<p>○「どんな問題を作れそう？」と発問することで、事象から数学的な問題を見いださせる。(定価)</p>
	<p>3 解決の手順・見通しを立てる。 ①おもちの定価をx円、お菓子の定価をy円にする。 ②定価で買うときの合計金額で式を作れそう。 ③基準量は定価で、おもちの10%引きは、<math>\frac{90}{100}x</math>と表せる。 ④安くなったおもちの金額は、<math>\frac{10}{100}x</math>と表せる。 など</p>	<p>一斉・個別 ○問題の解き方について考えさせた後、「何か困っていることはない？」と問うことで、生徒から挙げられたものを本時のめあてにつなげていく。</p> <p>生徒の反応例</p> <p>(1)何をxにすればいいんだろう？ (2)10%引きってどう表せばいいの？</p>

**check**


学習内容として「子どもの反応例」を記述しています。これにより、学習活動を通してどのような理解を子どもに届けたいのか、イメージを持つことができます。

**check**

子どもの困り感からめあてを設定することで、学ぶ必然性を感じさせようとしていました。

□ 子ども一人一人の思いや考えを見取り、支援する。

<p>3 課題を解決する。</p> <p>(1) 4つの小数の比べ方を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・位取りの表で比べる。</li> <li>・数直線で比べる。</li> </ul> <p>(2) 4つの小数の大きさを比べる。</p> <p>① 自力解決をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・位取り表に4つの小数を表し、大きさを比べ、ノートに大きい順に書く。</li> <li>・数直線上に4つの小数を表し、大きさを比べ、ノートに大きい順に書く。</li> <li>・数直線のどこに4つの小数を表せばよいか分からない。</li> </ul>	<p>25</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 既習の整数や小数の時は、どのようにして比べたかを想起させる。</li> <li>○ 前時までの学習を振り返り、小数をどのように表すと大きさがはっきりするかを話し合うようにする。</li> <li>○ 比べ方は、あまり時間をかけず、既習内容の確認を全体で行う。</li> <li>○ 位取り表、数直線を用いて4つの小数を表し、大きさを比べることができるよう、児童が書き込める物をタブレット内に準備する。</li> </ul>
--	--



**check**

拡大して表示したり、何度でもやり直したりすることができるタブレットのよさを生かし、自力解決に取り組ませました。

教師用タブレットで一人一人の解決状況を簡単に確認することも可能です。


□ 学び合いをコーディネートする。

7 指導過程		
学習内容・活動	時間	○教師の支援 ◆評価（方法）
1 本時の問題に出会う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">四角形にあるものは何でしょう。</div> (1) 仲間分けのポイントを話し合う。	7	○ ドットがかかっているカード上に作った四角形を見せ、それぞれの四角形に「あるか、ないか」を伝える。 ○ 何が「あるか、ないか」を考えることで、本時は「平行」というポイントで仲間分けすることに気付かせる。 ○ ドット図を方眼と同じように見て、平行を判断している児童がいれば、その方法を全体にも広げるようにする。

**check**

9種類の図形の仲間分けを通して「平行」というキーワードを出させた後、「どこを見ると平行ってわかるの？」と問い返すことで、数学的な見方・考え方を表出させようとしていました。

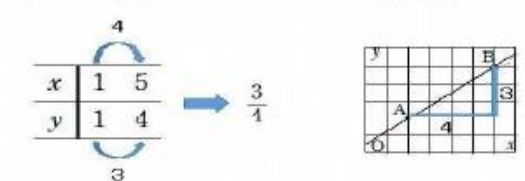
考えを深めさせるために、どんな発問と問い返しが効果的かを考えて授業に臨むことが大切です。

- 共有させるための教師の働きかけの例
- 【予想】「○さんの式の意味を説明できますか」  
「○さんの考えの続きが言えますか」
  - 【再生】「○さんの説明をもう一度言えますか」
  - 【換言】「○さんの考えを別の言い方でも言えますか」
  - 【要約】「○さんの考えを簡単に言えますか」
  - 【共感】「○さんの気持ちが分かりますか」
  - 【発見】「○さんの考えのよいところはどこですか」
  - 【補助】「○さんの考えのヒントが言えますか」
- 考えを深めるための問い返しの例
- 【事実】「どういうことですか」
  - 【方法】「どのように考えたのですか」
  - 【理由】「どうしてそうなるのですか」 など
- 

<p>(2) グループで確認する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">予想される生徒の説明</div>           おもちの定価を <math>x</math> 円、お菓子の定価を <math>y</math> 円とすると、</p> $\begin{cases} x + y = 600 & \dots ① \\ \frac{90}{100}x + \frac{80}{100}y = 528 & \dots ② \end{cases}$ <p>① <math>\times 80</math>      <math>80x + 80y = 48000</math>            ② <math>\times 100</math>    <math>+</math> <math>90x + 80y = 52800</math>                              <math>-10x</math>      <math>= -4800</math>              <math>x = 480</math></p> <p><math>x = 480</math> を①に代入して、  <math>480 + y = 600</math>  <math>y = 120</math></p> <p>☒ おもち480円、お菓子120円</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 式を立てることができない生徒には、数直線を利用し、小学校で習った割合を復習させる。</li> <li>○ 班の考えをホワイトボードにまとめさせる。式を書くだけでなく、式の意味も説明できるようにさせる。</li> <li>○ つまずきがある場合には、つまずきがある班の考えを取り上げ、全体で共有し、検討する場を設定する。</li> </ul> <p><b>check</b></p> <p>つまずきを生かすことで、学びを深めることができます。</p> <p>実際の授業では、<math>\frac{10}{100}x + \frac{20}{100}y = 528</math> と立式したつまずきを取り上げて、式の意味を考えさせました。</p>
---	---



□ 説明のゴールを明確にし、共有後にアウトプットさせる。

<p>(3) 全体で確認する。</p> <p><b>解1</b>  <math>y=ax+b</math> で、傾きが <math>\frac{3}{4}</math> より、  <math>y=\frac{3}{4}x+b</math>          点(1, 1)を通るから、代入して  <math>1=\frac{3}{4}\times 1+b</math>  <math>b=\frac{1}{4}</math></p> <p><b>解2</b>  <math>y=ax+b</math> に2点A(1, 1), B(5, 4)を代入する。  <math>\begin{cases} a+b=1 &amp; \dots\text{①} \\ 5a+b=4 &amp; \dots\text{②} \end{cases}</math>  <math>\begin{array}{r} a+b=1 \\ -) 5a+b=4 \\ \hline -4a=-3 \\ a=\frac{3}{4} \end{array}</math>  <math>a=\frac{3}{4}</math> を①に代入して  <math>\frac{3}{4}+b=1</math>  <math>b=\frac{1}{4}</math>          A. <math>y=\frac{3}{4}x+\frac{1}{4}</math></p>	<p>一斉</p> <p>傾きの求め方          (変化の割合)                      (グラフ)</p>  <p>○手が止まっている生徒が多い場合は、一度考え方を共有して確認する。          (思考・判断・表現：ノート分析・行動観察)</p>
--	--

**check** 「説明することができる」ことをねらいとしているので、理想とする説明を指導案に明記することで説明のゴールを明確にしています。これにより、子ども達の説明を洗練するためのより効果的な問い返しがしやすくなります。

授業では、子ども達の記述がどのように変容していったのを見取るようにしましょう。

<p>4 学習を振り返る。</p> <p>(1) 本時のまとめをする。</p> <p>⑤ 四角形は、向かい合った辺が何組平行になっているかによって、名前がつく。          向かい合った1組の辺が平行な四角形を台形という。          向かい合った2組の辺が平行な四角形を平行四辺形という。</p> <p>(2) 平行四辺形や台形を弁別し、選んだ理由について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>向かい合っている平行な辺が1組だから、台形だ。</li> <li>向かい合っている平行な辺が2組だから、平行四辺形だ。</li> </ul>	<p>2 3</p> <p>(5) ○ 本時を振り返り、仲間分けしたポイントや平行な辺の組数などについて児童とやりとりをしながら、まとめるようにする</p> <p><b>check</b> 教師が一方向的にまとめるのではなく、子どもとのやりとりを通してまとめようとしています。結果だけでなく解決のプロセスも振り返ってまとめるようにしましょう。</p> <p>(5) ○ タブレットを使って、方眼上に様々な向きにしたいいくつかの四角形を提示し、平行な辺の組数から平行四辺形と台形を弁別できるようにする。          ○ 選んだ理由を友達と伝え合い、平行四辺形や台形の特徴が理解できるようにする。</p>
--	---

**check** 子ども達は説明を1回聞いただけで、きちんと理解できるとは限りません。(わかったつもりになっていることがあります。)

共有したことや説明したことを、書かせたり、話させたりしてもう一度アウトプットさせることが大切です。

□ ねらいに沿った適用問題を設定する。

<p>(2) 適用問題に取り組む。</p> <p>○ □にあてはまる不等号を書きましょう。</p> <p>① 4.305 □ 4.32</p> <p>② 17.102 □ 17.08</p> <p>○ 次の数を小さい順にならべましょう。</p> <p>ア 0.12 イ 0 ウ 0.09 エ 0.01 オ 0.007</p>	<p>○ どの位までが同じ数字でどこの位を比べるのかということを考えさせる。</p> <p>○ つまづいている児童には、位取り表が書いてあるヒントカードを準備する。</p> <p>○ ②のような十の位の数であっても、比べ方は同じで10分の1の位を比べることを確認させる。</p> <p>○ 数直線では、一目盛りの大きさを確認して、数を正しく表すようする。</p> <p>○ 数直線は数の順序性と連続性が視覚的に捉えられるよさがあることを感じられるようにする。</p>
--	---

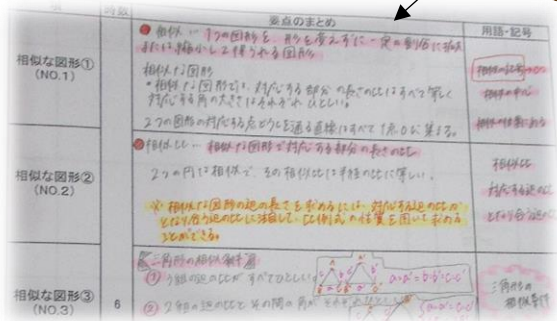
本時のねらいに沿った適用問題を設定します。子ども達が学びの手応えを感じることができるようにすることが大切です。

□ 変容が実感できるまとめ・振り返りの場を工夫する。

<p>まとめ</p> <p>5分</p>	<p>6 本時の学習についてまとめ、次時の学習内容について知る。 ・本時のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>割合を使った定価の問題は、基準量の定価を <math>x</math>、<math>y</math> で表し、式を立て、解を求めることができる。</p> </div>	<p>一斉・個別</p>	<p>・<u>数学要点シート</u>に本時の授業の要点を自分の言葉でまとめる。</p> <p>○板書をもとに本時の授業の振り返りを行う。</p>
----------------------	---	--------------	--

板書をもとに振り返りが行えるようにするために、思考過程（見方・考え方）を板書に残すことが大切です。

また、振り返りができるノート（シート）作りのために、キーワードを吟味して板書に残しましょう。



※ まとめで聞いてみましょう！！



今日、どうしてみんなはわかるようになったの？  
(コンピテンシーベースへ)

□ ICTを活用して、振り返りを充実させる。

振り返りの場面でICTを活用して、まとめさせる取組が見られるようになりました。子ども達が記述した内容を、テキストマイニング（文書データの自動分析）をかけることで、クラス全体の振り返りを行うことができます。

「どのキーワードが大きいと思う？」

「どうしてこのキーワードが大きいのかな？」

などと、発問してみましょう。

